



青葉区民会議



2015年9月発行

青葉区民会議ニュース

43号

発行 青葉区民会議

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内

Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com

URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索

青葉区民会議

検索

入手先：青葉区役所、地区センター、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

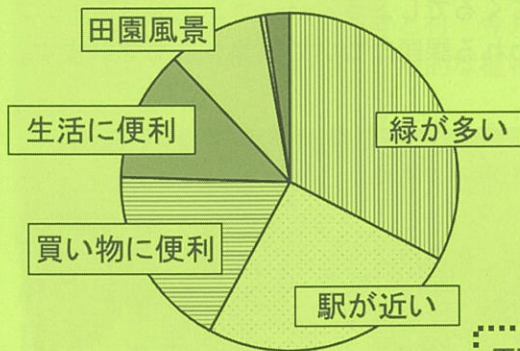
青葉区のまちづくり！

青葉区まちづくり指針(20年後の青葉区)が改定中です

●青葉区にはこのような特徴があります。(横浜市統計より)

- ・青葉区人口はこれから減るの？ →2035年まで増え続けます。
- ・まだまだ高齢者は増えるの？ →団塊の世代人口が市内18区中3番目に多いのでますます増えます。
- ・市外からの転入・転出がそれぞれ年1万3000人を超えます(18区中2番目に多い) →人の移動が多い。
- ・昼の人口は夜間のたった77%(18区中1番少ない=11万人の区民が通勤・通学で区外へ 4万人が区内へ)
- ・街路樹(歩道並木)の本数は15,409本(18区中1番多い) →緑を里山にも街中にも感じます。

●青葉区民はこのようなことを考えています(青葉区民会議1000人アンケートより)



あなたは10年後には次のどのような所に住んでいたいと思いますか？

| | |
|---------------------------|------|
| ア 近くに公園や街路樹があり緑が多い地域 | 331 |
| イ 駅が近くて生活に便利な地域 | 256 |
| ウ 商店が近く買い物に便利な地域 | 178 |
| エ 公共施設が近くにある生活に便利な住宅地 | 127 |
| オ 田んぼや畑が近くにあり田園風景が身近にある地域 | 93 |
| カ 近くに緑が少ないと感じる地域 | 5 |
| その他 | 23 |
| 合計 | 1013 |

青葉区のまちづくりの方向性として次のどちらにあなたの考えはちかいですか？

| | |
|----------------------------------|-----|
| ア 駅を中心に施設を集めて生活に便利なまちづくりを進める | 241 |
| イ 地域に必要な施設を集めて歩いて生活ができるまちづくりを進める | 748 |
| 合計 | 989 |

●青葉区民会議は1000人アンケートや横浜市市民意識調査を基に提案をしました

- 1) 「緑豊かなまち、生活に便利なまち」を目指すこと。
- 2) 駅に集約するコンパクトシティではなく、区全域に緑があり居住地域に住みやすさを向上させること。
- 3) 住民のまちづくりへの意識が高いことから、住民参加の定期的な話し合いの場・機会を設けること。
- 4) 住民の生活に近い地域での具体的なアクションプランとして「地区プラン」の策定を進めること。

青葉区まちづくり指針中間案の説明会が！9月13日青葉区役所で

青葉区のまちづくりを5つの視点に分けて意見を出し合います。

- 多様な世代に魅力的なまちづくり
- 水と緑の環境を維持・発展・創造させるまちづくり
- 魅力的な街並みのコミュニティを維持・発展・創造させるまちづくり
- 安心して暮らせるまちづくり
- 環境に配慮したまちづくり



中間案は区HPから見る事が出来ます。

意見募集期間 平成27年7月1日から9月30日まで

回覧

承認
区連会 6号

発行:青葉区民会議

区民会議はみなさんの意見をお聞きします

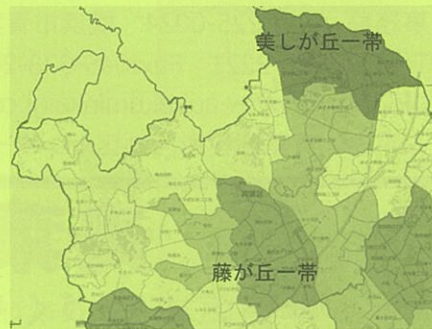
安全・安心・まちづくり部会

防災・減災、人にやさしいまちづくり等まちの安全安心をテーマとしています。今年は3Dマップを使って見えてくる地域の課題や防災カレッジ構想などを検討しています。

■新しい技術を勉強しています

・統計GISと地図

横浜市ではエリア単位でさまざまな統計情報を見て分かるようにしたり、集計を簡単にできるような仕組みを公開しています。青葉区の地域のことが違った角度から分かります。そこから見えてくることは、まちの将来を考えた話したり話しあったりする時、とても役立ちます。右の地図は、地域包括支援センターエリアでの高齢単独世帯数を色別にしてしています。美しが丘一帯と藤が丘一帯に単独世帯が多いことが分かります



・オープンデータと3Dマップ (立体地図)

地図上にデータを配置するとどの地区にどのような課題があるのかが見えてきます。例えば高齢化はどの地区で進んでいるのか分布状況が分かります。その上にバス路線を重ねると高齢者の移動のためにはどこにバス路線が必要か見えてくるかもしれません。さらに地図を立体化すると日常生活から災害時の避難まで、山坂の多い青葉区でどのように行動すれば良いか見えてくるでしょう。パソコン上の3Dマップにデータを表し、そこに現われる課題について議論を進めています。

■まちの防災組織について考えています

防災計画の中には、区民や地域の役割としてかかっている「町の防災組織」ですが、地区によって状況に違いがありそうです。自治会・町内会の区域を超えて他の防災組織と協力したり、拠点と連携したり実効性の高い防災組織の輪を広げることはできないでしょうか。また防災・減災力を持った人材を育て、町の防災組織で活かすことを目指して先進的な取り組みをしている茅ヶ崎市市民安全部防災対策課を訪問しました。



防災コラム(寄稿文) ⑥ 「高齢社会、地域への警告」

防災アドバイザー 佐藤榮一

最近の大災害時の過酷被害を調査していて、周辺の人々がその人の存在を、災害時に初めてあるいは久しぶりに気づく。何か物悲しくさびしい気持ちになってしまいました。

非日常事態になる前、普段から高齢者の存在は把握されていなければならないと感じました。近所の高齢者の顔が見えなくなり、家から出るのが億劫になってか、寝たきりになってか、別の親族のもとに移動してか、養老施設に入っか、あるいはもうすでに亡くなっているのか。目の前からいなくなっていくの間にか皆の記憶から消えていく。災害時に存在が確認されるのもつらいものですが自然消滅的なのも悲しいですね。

近所の『ひだまり公園子ども会』世話役の山本さんがケア施設に入ることになり、近所の人たちで壮行会が行われました。前半は大人、後半は子どもたちが集い、凧作りやペーパークラフトを楽しませていただいた記憶を心に、手を取り合い涙を流しながら別れを惜しみました。地域の課題として高齢者は存在感を示さなければならぬと強く感じられたひとこまでした。

高齢者は助けてもらう、それが高齢者に与えられた『役割』です。防災イベントに参加して助けられようよ、と私は提唱しています。発災時だけではなく普段から「我を助けよ」と若者にアピールしましょう。

山本さん夫妻と近所の若い人たちを中心とした『共助力』に心強い安堵の感覚をもった今夏です。



防災コラム①から⑤はHPでご覧になれます。 <http://www.aobakuminkaigi.com/koho-iinkai/sato-column.html>

区民会議は青葉区の‘今’の課題を共有します

自然・環境部会

青葉区は街路樹が多く里山の緑も残され、緑の豊かなまちです。この恵まれた自然環境を次世代につなげるため、まちを歩き緑の環境を継続維持していくための課題を見つけ区民の皆さまと意見交換しながら、課題を整理して、提案していきます。

寺家ふるさと村の「ウェルカムセンター」

「緑を守りたい」そんな市民の思いに後押しされて始まったのが「横浜みどり税」です。これを財源の一部として横浜市は緑に関する施策「横浜みどりアップ計画」を5年ごとに策定し事業を推進しています。みどり税を活用した取り組みがスタートして7年目です。「次世代につなぐ森を育む」「身近に農を感じる場をつくる」「実感できる緑をつくる」が主な取り組みです。その一つ「次世代につなぐ森を育む」事業として森と市民をつなげるために市内5カ所に「ウェルカムセンター」が整備されました。



8月23日、青葉区の寺家ふるさと村に昨年できたウェルカムセンターを訪ねました。当日は、自然ガイド六浦さんの案内で「寺家ふるさと村」を散策しました。夏の終わりは花や実の少ない季節と説明があったものの、ヒメコウゾ（和紙の原料）やヤマボウシの実、珍しい植物を見つけることができました。寺家は人が手をいれて森を維持管理してきたところで、自然林ではありません。炭を焼くためのクヌギやコナラが多い雑木林です。畑では昔から様々な野菜や果物が作られ、自生している野草も食用や薬草として人々の暮らしと深く関わっていたと聞きました。寺家で暮らす人々の生活に思い巡らせながら緑を維持していくことの大切さと難しさを考えました。また、センターには「寺家ふるさと村 今月の花」の写真展示があり、寺家の四季を目にすることが出来ます。定期的な植物調査の成果です。



ヒメコウゾ

区内にあるすばらしい緑の環境を区民が知り、身近な自然として森に関わることは大切だと思います。横浜みどりアップ計画の中から青葉区に関わる事業を目で確かめながら「緑をどのように守り、引き継ぐのか」区民に伝え一緒に考えていきます。ウェルカムセンターが情報発信の拠点となり、そこを訪れることで区民が緑や森を考えるきっかけになればと思います。

健康・福祉・教育部会

部会員のさまざまな地域での活動背景やスキルを活かして、地域の課題を話し合い広く地域の意見を聞く場を作り、その広聴を主体に課題・問題をどのように区政や市政に反映できるか活動しています。

問題共有を部会活動の第一に掲げ、部会員の知見や地域での活動を背景に地域でのさまざまな福祉などに関する課題や問題を区民のみならず共有することから活動を展開します。第3期青葉区地域福祉保健計画の策定が進んでいます。どのような地域課題があるのか、勉強会として地域ケアプラザを訪問することから始めました。

《活動報告》 青葉区内12カ所目で最後となる地域ケアプラザがすすき野に建設されます。福祉の窓口としての地域ケアプラザを訪問し、現場で起こるさまざまな問題に直面しておられるスタッフの方々から話を伺うことを今期の部会の大きな取組としています。



●ケアプラザ訪問第2回—7月28日

大場地域ケアプラザを訪問し、スタッフから次のようなお話を伺いました。

- ・ケアプラザの立地条件や使いやすさの課題
- ・「元気づくりステーション」を身近な居場所づくりとして大場町とあざみ野二丁目に設置
- ・地域住民への広報や、引きこもりの人への対応
- ・ロコモ対策への取組

区民会議として何を取り上げられるか、今後の検討課題です。

区民会議の勉強会に参加しませんか？

青葉区民会議では毎月勉強会を行っています。区政や市政についてさまざまな視点から学びます。

6月は横浜市政策局政策課担当係長関口昌幸さんに「横浜市のオープンデータ推進について」、7月は青葉区区政推進課長室谷洋一さんに「平成27年度青葉区区政運営方針」の説明をお願いしました。

【6月勉強会】－横浜市のオープンデータ推進について－

横浜市では「行政がもつデータを誰でも自由に利用し、さまざまなものに活用できるようにすること」を進めています。もちろん特定の個人に関する情報を含めないのが基本です。その上でどんなことが出来るのでしょうか？

例えば「帰宅困難者一時滞在施設」を携帯アプリを使って「今いる所から一番近い滞在施設とその施設の状況」を携帯上のマップで見つけることができます。⇒一時滞在NAVI



横浜市がオープンにしているデータは市のHPから見るができます。

あちこちに分散している子育てに関する情報をまとめて必要とする人たちへ提供するサービスを金沢区では始めています。便利で安心な生活へオープンデータを活用している事例です。青葉区での可能性について勉強会を始めました。



【7月勉強会】平成27年度青葉区区政運営方針を聞く！

「住み続けたいまち『青葉』」が青葉区の運営方針の基本目標になっています。横浜市の各区局の運営方針は毎年5月に公表されます。370万横浜市では18区と26局・統括本部の方針が出されます。

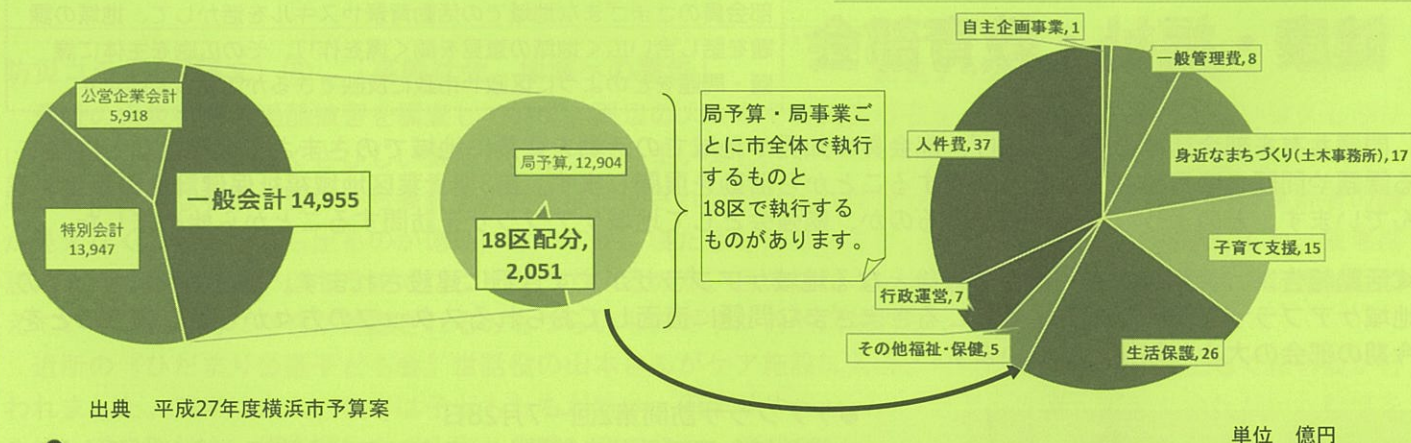
青葉区HPで方針を見られます



青葉区のまちづくり事業は、区が単独で実施するものもあれば、局と区で連携して行うものもあります。青葉区だけの計画（運営方針）を見るだけでは、区内で実施されているさまざまな事業の全貌が分かりません。市全体の計画をしっかりと見ることも重要です。例えば、青葉区の緑の保全や創出は、環境創造局で市の事業として行われますが、身近な公園の管理や街路樹の維持整備などは区土木事務所が担っています。

横浜市H27年度予算 3兆4,820億円 内訳

青葉区配分予算 116億円 内訳



区民会議では毎月勉強会を開催します。内容やスケジュールについては青葉区民会議ホームページでお知らせします。参加希望の方は区役所広報相談係へご連絡ください。

青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて
青葉区役所 1階広報相談係へ Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール: ao-koho@city.yokohama.jp